



かんろ

寒露（8日）… 空が澄み、柿の実が色付き始めます …

先日、第二校庭で遊んでいると、広い空にひつじ雲がきれいでした。彼岸花から金木犀へと花の匂が移り変わりました。香っていた金木犀も雨が降ると花びらが散り、オレンジの絨毯のようになります。そろそろ、裏庭の柿も色付き始め、ブドウも食べ頃になります。

<菊花開 きくのはなひらく 10月13日~17日>

寒露の次候は「菊花開」です。残念ながら幼稚園には菊の花はありませんが、いろいろなところで菊の花が咲き、菊祭りなどが催される時期です。

<子ども工務店が作業中！>

10月初め、園庭の森のハウスから、「ドゥルルルル！」という声？が聞こえてきました。傍に行ってみると、年少児が柱のボルトの部分に砂場の遊具をあてがって、声を出しているのです。取っ手付きのジョウゴを電動工具に見立てて、自ら電動工具の音を発しながら、ネジを締める動きを楽しんでいたのです。ボルトのところから目を離さずに力を入れている様子は、先日業者の方が園庭のベンチの修理の際に、ネジを締めていた動きと重なります。

<見立てやつもりの動きを受け止める言葉掛け>

子どもは、かっこいい、すてきなと思うものを見ると、素直にそれをまねしようとします。「ドゥルルルル！」と自ら効果音を出しながら、ボルトを締める姿は、職人になったつもりの微笑ましい動きです。こんなとき、私たちは「しっかりとネジが締まっていますね」「今度うちの修理もお願いしようかな」などと、工事の人に声をかけるように言葉を掛けます。見立てやつもりの動きを受け止めることで、子どもの遊びが膨らんでいくからです。

<共通のイメージがあると…>

子どもたちは、見立てやつもりの動きの天才です。特に子どもの身の丈に合った動きやイメージは、ごっこ遊びに再現されやすく、このように自分の世界を広げていきます。一方で、アニメなどのイメージで遊ぶ姿もあります。ただし、それはその番組を見たことのある子しかイメージを共有できません。また、子どもの身の丈に合っている場面が少ないため実際に再現するのは戦いの部分になりがちで、それは幼稚園でしてほしい遊びではありません。

<絵本や共通体験が大切です>

作品展で年長児が絵本や歌のイメージを基にグループ製作を進め、年中児がおぼけのイメージを大切にしたのは、みんなが共有できるイメージがあることで、どの子も分かって楽しめるからなのです。日々絵本を読み聞かせ、自然との関わりを大切にするのは、そこでの心揺さぶられる共通体験が、遊びの糧になり、さらにいろいろな友達との関わりを促し、遊びを豊かにしていくからなのです。



「ドゥルルルル！」と真剣な表情でボルトを締めています(つもりです)



取っ手付きのジョウゴを電動工具に見立てる柔軟な想像力



砂場の遊具を電動工具に見立てた動きは、どこかで見た建築作業の様子が心に残っていたのでしょう。大人の働く姿は子どもにとっては憧れなのです。



葉っぱを目や耳に見立てる遊びも